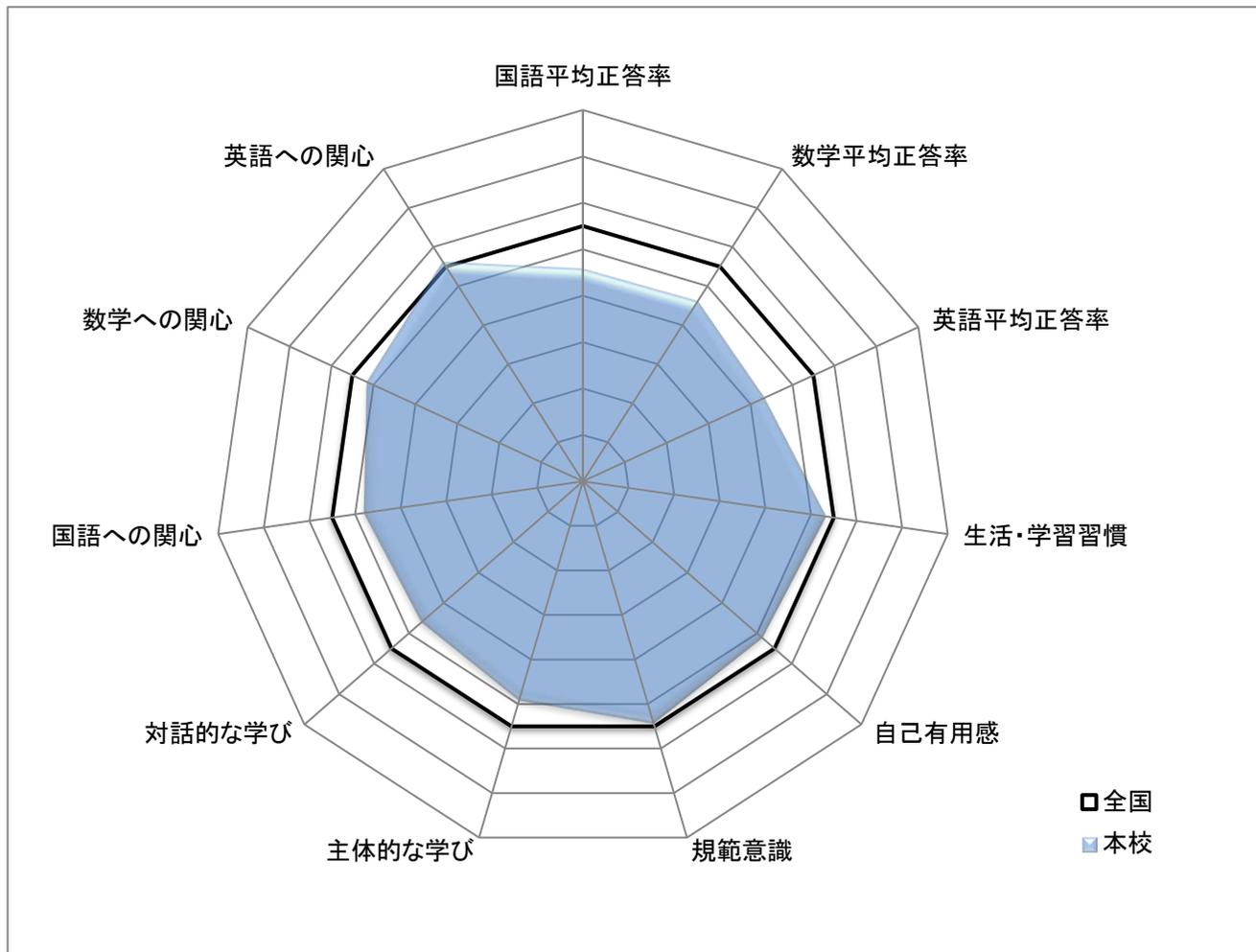


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

全国・東京都いずれの正答率と比べても、全ての領域において下回っている。また、問題形式において、どの教科も「記述式」の問題に対して、特に解答意欲と正答率が低いことがわかる。国語科では漢字や古典など、数学科では、関数の項目、英語科では「読むこと」の項目の基礎知識の定着が特に足りない。

《授業改善のポイント》

明るく楽しい学校生活の中で、主体的・対話的な学びを各教科で重点的・系統的に実践していくことを本校一丸となつてとして努力していく。国語科では、基礎基本の知識・技能の習得と、教材を読み解き、自分の考えを表現できる実践的な力をつけられるような授業計画を目指す。数学科では、個に応じた指導を心がけ、協働学習を取り入れるなどの工夫を加えていく。英語科では、リスニングに力を入れるとともに、音読の活動とそれに連携した書くことの活動を充実させ、基礎基本の定着を図る。

《チャートの特徴》

・国語・数学・英語、全ての平均正答率が平均から大きく下回っている。特に、国語・数学への関心が薄い。
 ・全国・東京都の肯定的回答と比較して、総合の時間、学級活動、道徳の時間等における主体的・対話的な学びを経験している実感がないことが本校の特徴であるといえる。
 ・「自分に良いところがあると思う」「学校に行くのが楽しい」「交友関係に満足している」の3点において、全国・東京都の平均よりもかなり高いことがうかがえる。

《家庭・地域への働きかけ》

生徒の基本的な学習習慣を家庭と学校と一体になって確立し、基礎基本の学力を高めることを最重要課題と認識することが大切である。保護者会や三者面談などで家庭学習の大切さや生活習慣・生活リズムの重要性を呼びかけ、学力の定着を図っていく。